

事業所による自己評価結果

公表:平成 31年 3月 29日

事業所名 児童発達支援センター(重症心身障害対象)

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	5	7		利用者が増え車いすの設置場所に困ることがあるが、導線を考え整理整頓している。	多機能型事業のため、生活介護と放課後等デイの利用者が重なる場合がある。その時は、スペースが狭いので環境整備整備が必要(事業拡充により問題は解決する)
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	12			現在、生活介護拡充のため職員数が多いので、配置基準は満たしており、専門性を高めるために研修を実施している。各事業ごとにお知らせできるスペースを作り情報伝達できるようにしている。	今後も、職員の専門性を高めるために研修を実施する
	③	活動室等は本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	2	2	トイレなど個別性に対応できるように環境は工夫をしている。情報伝達は本人や保護者に分かりやすいように掲示板を事業ごとに色分けし使用している。お便りも生活介護と放課後等デイは今年度より発行しタイムリーな情報提供されるようになり向上したように思う。	今後も、施設設備は利用者の個別性を考慮し対応していく。また、行事や活動のお知らせが利用者にとってわかりやすい表示になるように工夫していく。
	④	活動室等は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	10	1	1	今ある環境の中で工夫しているが、プライバシーを守るカーテンが少ないためスクリーンの購入を検討している。ピンクマットは毎日掃除機をかけ1回/7日は拭き掃除をしている。ラグは毎日洗濯している。ベッドも利用者ごとにリネン交換している。室温湿度も、換気を心がけ、適温(①冬季の室温20℃～22℃湿度40%～60%②夏季の室温25℃～27℃、湿度45%～65%)にしている。	今ある環境の中で工夫しているが、プライバシーを守るカーテンが少ないためスクリーンの購入を検討している
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	9		3	現状をSWOT分析し目標管理を掲げ利用者や保護者によりケアが提供できるように取り組んでいる。生活介護拡充に向けて、職員の知識・スキル向上できるように研修に取り組んでいる。課題を達成のために職員間で情報共有するために、個別支援会議等の話し合いを実施している。	今後も、施設の目標に合わせ部署の現状を分析し目標管理を実施する掲げ全職員で取り組む。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	11		1	保護者にはニーズの聞き取りや中間評価以外にも、今支援している内容でいいのかの聞き取りを実施している。また、保護者会での意見を取り入れ、より見やすいように情報提供の方法を変更した。各行事も、保護者の意見を取り入れ企画した・毎朝のカンファレンスで前日の課題や本日の予定、支援方法について職員間で情報共有し業務改善につなげている	今後も、保護者含めた第三者の評価を取り入れ、より良い支援ができるように業務改善に取り組んでいく。

業務改善	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	10	1	1	利用者や保護者の声から、「昨年より児童発達支援や生活介護はよくなった」と言われ評価してもらっている・評価結果を公表する予定である。	今後も、事業所向けの自己評価や保護者向けの評価を実施しその結果を踏まえ、より良い支援をめざし業務改善していく
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	2	6	4	第三者評価は受けていない。保護者の事業所の評価はこれから公開する予定である。	第三者評価の外部評価の検討をする。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修会の機会を確保しているか	12			院内外への研修を紹介し、関心のあるものに参加してもらっている。施設の全体研修(医療安全や感染対策、利用者の権利擁護)に参加している。され以外にも、部署でテーマを決め研修を毎月実施している。また、医療的ケア等については病棟に研修に行き、知識やスキルアップにつなげている	職員の資質向上のため院内外への研修に参加し自己研鑽する。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、個別支援計画を作成しているか	12			年度初めに、利用者や保護者からのニーズの聞き取りを行い、課題整理票を用い分析し、個別支援計画を作成している。また、アセスメントは、自分だけでなく他職種から情報を実施している。	今後も、年度初めに、利用者や保護者のニーズの聞き取りを行い、課題整理票を用い分析し、個別支援計画を作成する。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7	2	3	重心なので正常発達を理解したうえで障害児療育を考え実施している。	今後は、どのアセスメントツールの用いるか検討をする。
	⑫	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11	1	1	地域性もあり、社会資源が乏しく、相談員との連携がうまく取れないこともある。一方で、医療的ケアについてはかかりつけ医の指示書をもらい実施することでスムーズにしている。また、退院時カンファレンスにも参加し、情報を共有し支援内容にも盛り込むこともできた。自分自身は不十分だと思う・それぞれの支援項目から今すべき支援について支援会議を実施して計画を立案している。	今後も、利用者にかかわる他施設と連携し、個別性のある支援内容を検討していく。
	⑬	個別支援計画に沿った支援が行われているか	12			受け持ち職員が個別支援計画を把握し、業務調整しながら利用時には、実施できている。また、その内容も療育記録に残している。	今後も、立案した個別支援計画が実施できるようにする個々の職員の意識を向上させる。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	12			担当職員が立案し、会議で説明後に意見を出し合い、内容を検討している。今年は、新たにみなと高等学園との交流を取り入れ、利用者や保護者にも好評であった。	今後も、活動プログラムがマンネリ化しないように専門職としての意見をもっと取り入れていきたい。

	⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	11	1		アレンジをしたり、公開療育での意見交換などを参考にしたりして今後の活動プログラムの充実を図りたい・利用者のリクエストも入れながらいろんな活動ができるように工夫している・固定化が見られる部分もあるが、楽しみにしてもらっている活動も多くあるので、少しずつ変化をくわえるようにしている。	アレンジをしたり、公開療育での意見交換などを参考にしたりして今後の活動プログラムの充実を図りたい・利用者のリクエストも入れながらいろんな活動ができるように工夫している・固定化が見られる部分もあるが、楽しみにしてもらっている活動も多くあるので、少しずつ変化をくわえるようにしている。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成しているか	11		1	他職種で、その日の体調を見ながら、集団活動なのか、個別活動なのかを判断している。また、個々の発達段階に応じ、個別支援計画の支援内容も変更している	今後も、子どもの将来と現状を見据えた個別支援計画になるように他職種で検討していく。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	11		1	朝のミーティングでスケジュール確認をし、必ず打ち合わせを実施している。	今後も、職員間で情報を共有支援に取り組む。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	8	4		振り返りとしては不十分であるが、行事等や気になることがある場合は、その日のうちに振り返りをしている。その日のうちにできなくても、情報共有のためできるだけ早く話し合うようにしている。	今後も、タイムリーに振り返りを行うようにしたい。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	12			職員に記録の重要性を説明し意識して記録してもらっている。また、あとで記録の確認をしている。	「利用者の姿が見える」記録の標準化を目指して、現在、記録のマニュアル作成をしている。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性をほとんどしているか	12			モニタリングも実施でき、評価を保護者にも説明でき、次の計画につなげている	今後も、モニタリングを実施し、保護者に実施した内容を説明する。必要なら計画の見直しを実施していきたい。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	11	1	1	声がかかれば、年間担当と児発管が参画している。	今後も、要請があればサービス担当者会議に参加する。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	7	4	1	あまりできておらず、保健師や行政職員との連携が今後検討が必要だと思う	今後、保健師や行政職員との連携を検討する。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係者と連携した支援を行っているか	10	2		医療機関や支援学校とは連携できている。今後は、公的機関(保健所、障害福祉課等)、保育所等できていない。	今後も、医療機関や支援学校と連携していく。さらに、公的機関(保健所、障害福祉課等)、保育所等と連携も検討していく。

②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えているか	12			主治医指示書を取ってもらい医療的ケアを実施している。長期にわたり入院した後の退院が決まった場合や、こどもの状態が変わった場合は地域連携会議に参加し話し合っている・必ず、医師指示書のもとに実施している。	医療機関との情報交換のツールとして主治医指示書を使用している。今後も、それを使いタイムリーな連携を図っていく。
②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容の情報共有と相互理解を図っているか	4	6	2	利用者が重度な障がいがあるため、保育所等を利用していない。同じような児童発達支援事業所とは連携し相互理解を図っている。	今後、必要があれば連携し相互理解を図っていく。
②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)等との間で、支援内容の情報共有と相互理解を図っているか	7	2	3	来年度に入学する利用者が1名おり、今後、個別支援会議を実施し相互理解を図っていく予定である。	移行支援がある場合は、情報共有のため会議を開催する。
②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	4	3	今年は自施設で公開療育を行い、情報交換や助言を受けている。	今後も、徳島県内の同様の施設の公開療育に参加し、情報交換をする。
②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	7	3	保育所や幼稚園との連携は、移行がないため実施していない。また、保育所等訪問支援等の要請もないので実施していない。	必要があれば、実施していく。
②9	自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	2	7	3	自立支援協議会の会議には参加していないが、ひのみね祭等やみなと高等学園との行事を通して、地域との交流を図っている。	必要なら、関連機関との会議等に参加する。
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	12			保護者が悩みを抱え込まないように連絡帳や直接に保護者と話したりして母の悩みや質問を受け一緒に考えている(摂食やてんかん発作についての質問が多い)。場合によっては、STやPTと連携し対応している。	今後も、保護者の質問に対応できるように専門職としての知識やスキルを向上させ対応できるようにする。
③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	11	1		重心であるため、医療的ケアについてや食事訓練などについて保護者から専門的な情報を提供した。	今後も、保護者の対応力の向上を図るように支援する。
③2	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	12			契約時には重要事項説明を行い、その後も不明な点について話をしている	今後、生活介護拡充となるため運営規定等に変更がある場合は、丁寧に説明を行う。

保護者への説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	12			本人支援、移行支援、家族支援、地域支援の視点を持って個別支援計画を立案し、説明と同意を得ている。	今後も、ガイドラインに準じ個別支援計画を立案し、利用者や保護者に説明し同意を得る。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と「支援を行っているか	12			1回/6Mには利用児者の状況や変化について話をし、要望の聞き取りをしている。	今後もねタイムリーに保護者の子育ての悩み等の相談に応じ、支援をしていく。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	12			父母の会は2回/年あり、1回は参加している。開催場所の提供等を行い、連携を取っている。	今後も、父母の会の支援をしていく。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	12			センター内の各部署と連携し相談申し入れに対し、誠実に対応するように心がけている(PTやSTと情報交換し、タイムリーな対応をしている)	今後も、他職種で情報交換し子どもや保護者の相談に応じられるようにする。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	12			1回/1～2Mにお便りを発行し情報を提供し、保護者からも好評である。	今後も、お便りを発行し情報を提供する。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	12			施設の個人情報取り扱いマニュアルに準じ実施している。	今後も、施設の個人情報取り扱いマニュアルに準じ対応する。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	12			お知らせやお願いなどは、口頭説明だけでなく、文書でお渡しするようにしている。	今後も、情報伝達はタイムリーに丁寧に実施していく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を行っているか	10	2		ひのみね祭で交流が持てるようにしている・招待ではないが、みなと高等学園との交流をしている	今後も、地域住民と交流が持てるようにしていく。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	12			施設のマニュアルに準じ、避難訓練を実施している。施設のBPCは提示されたので、事業所のマニュアルの見直しをし実施し、保護者に対して説明しなくてはならない。	今後は、事業所のマニュアルの見直しをし実施し、保護者に対して説明していく必要がある。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか	12			施設のマニュアルに準じ、避難訓練を実施している。想定も一部修正し、避難経路も変えて訓練を実施した。今後も、いろんな想定をし訓練を実施していく。	今後も。継続して施設のマニュアルに準じ、避難訓練を実施する。

④③	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	12			利用前に、保護者等から聞き取りをし、状況確認をし異常の早期発見に努めている	今後も、異常の早期発見のため利用前に、保護者等から聞き取りを実施する。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	12			施設の食物アレルギーマニュアルに準じ、対応している。	今後も、施設の食物アレルギーマニュアルに準じ、対応する。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	12			施設のMSM委員会で報告されたレポートの内容を情報共有し、同様の事故が起こらないように努めている。	今後も、職員のリスクセンス向上のため施設のMSM委員会で報告されたレポートの内容を情報共有し、同様の事故が起こらないようする。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	12			虐待防止の施設全体研修に全職員が参加し、さらに部署内でも利用者の権利擁護や身体拘束の事例について話し合っている。	今後も、職員の倫理観を高め、現状を見直しを図っていく。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	12			3原則を踏まえて身体拘束の現状についてアセスメントを実施。それを虐待防止委員会で検討、安全対策(身体拘束)の同意書を作成し、保護者に説明をし了解を得て、個別支援計画に記載している。	今後も、身体拘束についての意識改革を図り、現状を見直していく。また、身体拘束の記録に関しても検討していく。